

チャレンジ！！オープンガバナンス 2024 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名(注1)	No.	自治体提示の地域課題名	自治体名
		民生委員の地域での見守り活動でのデジタルマップ利活用の推進	千葉県流山市
チームがつけたアイデア名(公開)(注2)	民生委員がみんなで作る「まちのデジタルマップ活用術」		

(注1)地域課題名は、COG2024 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2)アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち選択肢項目は右のドロップダウンで選んでください

チーム名(公開)	流山市民生委員児童委員協議会デジタル化委員会		
チーム属性(公開)	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生 ドロップダウン選択→	3.混成	
チームメンバー数(公開)	20名		
代表者(公開)	若松文		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

1. 応募の際は、ファイル名を COG2024_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、COG2024 のウェブサイトにある【応募フォーム】からアップロードしてください。

＜応募内容の公開＞

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者および公開に同意したメンバー氏名([メンバー一覧ページ](#)を参照)、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について:
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY(表示)4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC(表示—非営利)4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja> および <https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開しません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

＜知的所有権等の取扱い＞

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことを確認してください。OKなら右欄の○を選択 →

OK

＜チームメンバー名簿:[メンバー一覧ページ](#)＞

チームメンバーに関する情報を該当ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

アイデアの説明は(1)アイデアの内容(活動)、(2)アイデアの理由(なぜなら)、(3)実現までの流れ、の三項目あります。それぞれ書いてください。必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容(公開)

アイデアは、対象とする課題解決のために、どのような社会的活動(サービス)を行うのかを具体的に示してください。 将来実現した場合に、新規性があり、実践したくなり、魅力的でわくわくするようなアイデアを求めます。その結果、課題が解決され、社会に良い変化をもたらすことが期待されます。2 ページ以内でご記入ください。

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

※応募チームとして解決したい課題のポイントを、以下にごく短く書いてください

＜解決したい課題のポイント＞

民生委員の活動は現地に赴き市民と会話することが主であるが、この委員が持っている情報や知見は多い。そこで民生員内でデジタル化を進めることで、民生委員の業務効率化、地域における情報共有を行い新たな課題解決の手法を検討する。

※以上の課題解決のために『何』をするアイデアか、それを『だれ』が『だれ』に対して『いつ』『どこで』『どのように』行うのか、受益者自身が主体的に関わる視点も視野に入れてわかりやすく書いてください。アイデアが具体的に実行される場面を想定し、説明をお願いします。

（参考）よいアイデアを生むには関連データの分析に加えてデザイン思考によるアイデアを利用する人への共感（使う人の立場になってみる）が大切です。

＜提案するアイデアの内容＞

民生委員の地域での見守り活動でのデジタルマップ利活用の推進を行うため、流山市民生委員児童委員協議会デジタル化委員会では、令和6年10月16日、民生委員がみんなで作る「まちのデジタルマップ活用術」と題してワークショップを開催しました。まず、デジタルマップを理解するため GIS について Civic Tech URA-GIMA 小泉さんに講義いただき、流山市がデジタルマップについてどのような取り組みをおこなってきたのか流山市福祉政策課高橋さんからお話を聞き、最後にどんなデジタルマップを作ることができるか、東京理科大学創域理工学部経営システム工学科の石垣研究室の皆さんと一緒にアイデアソンを行いました。

また、11月25日には、地域のデータを実際に歩いて収集を行うまち歩きを行いました。このイベントでは対象地域を一つに絞り民生委員がいつもまちあるきで気にしている点、災害時などに必要となる AED、井戸、防火貯水槽、道路の状況などを調べながら気がついたことをメモし、終了後共有を行いました。

流山市での民生委員活動参加者は 60-70 代の方が多くデジタル化に抵抗がある人も少なくありません。日頃の民生委員が活動している高齢者や障害者、児童の見守り活動等で得た知見をデジタル化することで情報共有など誰かの役に立てることができるという気持ちの変化を促すことが重要です。

そこで、我々はまずデジタルマップが便利なツールであることを実感してもらうワークショップを実施し、自ら情報を収集して地図に落とし込むことで新たな発見があることを認識してもらった上で、自分たちのアイデアによって解決策が見つかるというステップを踏む手順を取ることにしました。

上記ワークショップを実施したところ

【ワークショップを通じてよかったと思った点】

- ①ワークショップを通じて民生委員同士が担当区を越えて課題共有できた。
- ②実際に避難経路を歩き、高齢者が実際に歩いて避難することが難しい状況を確認することができた。
- ③自治会や補導員など地域の見守り活動に取り組む他のグループとの情報共有ができればよいと思った。
- ④ワークショップ実施前までは、個別のデータをデジタルマップ化した方が便利という思いがあったが、共有できるデータをデジタルマップ化することで地域の課題も共有することができることがわかった。といった感想がありました。課題は以下のようなものが出ました。

【課題】

- ①毎日の高齢者や障害者の見守り活動でまちを歩いた時に気づいたことなどを簡単に共有できる方法があればありがたい。
- ②各中学校区ごとのデジタルマップが使えるようになれば、日常の民生委員の活動だけでなく、PTAや自治会等も共有がしやすい。

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

また、デジタル活用は難しく自分には縁がないと思っていたがデジタルマップを使ってみたり、まち歩きに参加したことで身近に感じるようになったといった感想が出ました。

今後は、12月26日に、シビックテック活動団体のメンバーと協議しデジタルツールの管理方法、情報の公開方法について協議を行います。現時点では、①シビックテックと民生委員以外の機関も使用できるデータ及び民生委員が閲覧すべきデータなど閲覧権限の階層化をデジタルマップのアイディアを取りまとめ②市役所とデジタルツール購入について、部署横断での管理運営が可能か協議する。③再度民生委員でワークショップを行い、デジタル化を行なった後、連携できる機関を検討する。という計画を練っています。

--

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

※このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます。

※先に書いた『何を』『だれが』『だれに対して』『いつ』『どこで』『どのように』というアイデアの内容を支えるために、『なぜ』このアイデアが有効で、実現する意味があるのか』を、上記のデータを使ってわかりやすく説明します。

<参考：以下のように理由を書いていきます>

※根拠：このアイデアがなぜ必要であるか、またはなぜ有効だと考えるのか、その筋道を説明します。

※裏付け：その根拠を支えるために、統計データや報告書、事例などを使って補強します。さらに具体的なアイデアの効果についても、何らかのデータを使うと説得力が増すでしょう。（定性データを含めて歓迎）

--

(3) アイデア実現までの流れ(公開)

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策を含め、アイデア実現までの大まかな流れについて、**2ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

※アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます

<以下のように分けて書いていきます>

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**